

上田市

長大学生サミットで「団体・個人が発表
「人手不足」が課題の農家に学生を派遣

上田市の長野大学が市と取り組む信州上田学事業で15日、地域で活動する学生の取り組みを発表する「長大学生サミット」が開かれた。学生に発表の場を提供するとともに、学生の取り組みを地域に発信することが目的。

長大は2019年度から信州上田学を推進し、地域の課題に向き合う学びや地域と協働する学びを实践。同サミットは3

回目、これまでオンラインで行ってきたが今年度初めて対面を実施した。後日、HPで公開するという。

今回は5つの発表があり、田中法博ゼミナール小諸・スタバース班(8人)は、「小諸城の3DCGの復元アプリの成果報告と高精度な3DCG再現技術による地域貢献の提案」を発表。小諸の歴史の建造物を題材に、3DCG技術を用いて開発したアプリを紹介し、「今後は上田市でも活用して地域貢献を図る」とした。



学生発表の様子

塩田地域の活性化を目的に活動するAreaUPUni「愛着人口」を増やす取り組みなど地域の新たな価値の発見や、若者が地域で活躍することなどに企画・運営

したイベントを紹介。10月に別所温泉あいの湯で行った「あおぞらSUPERフェス」では、テントサウナにも取り組んだことを伝え、「今後

も様々なイベントで地域を盛り上げたい」とした。農業サークル「ツナグ

」(2人)は「地域と学生をツナグ」とし、活動状況を報告。人手不足が課題の農家に学生を派遣する、有償ボランティアの活動について伝えた。

長大ポランティア情報センターの学生スタッフ(5人)は、ポランティアセンターおよびポランティア情報センターについて説明し、コロナ禍で学生交流活動が減少した中でも継続してきたポランティア活動や現在の活動から多くを学んでいる学生の声を届け、活動の充実を目指して参加を呼びかけた。

環境ツーリズム学部1年の岩崎七海さんは「地域留学」の週間を通じて得たもの」とし、出身地・佐渡島への思いを語る。そして福島・磐梯町への地域留学の経験を伝え、「愛着人口」を増やす取り組みなど地域の新たな価値の発見や、若者が地域で活躍することなどに